

スピードを意識しながら、 向上心をもって誠実に仕事と向き合う

私が勤めている事務所は弁護士が二十数名在籍していて法律事務所としては規模の大きい事務所だと思う。そんな事務所に入所して今年で9年目になる。ふとしたことから事務員を募集していることを知り、「採用されることはないだろう」と思いながら新幹線に乗って面接を受けに来たことを懐かしく思い出す。大学を卒業して就職しないというのめいかなものか？ という程度の軽い気持ちだった。

法律事務所職員
島袋 宗太

慣れるのに必死だった入所当時

入所当時は電話受付、接客業務、資料の取り寄せなどが主な仕事だった。学生時代と環境が大きく変わり、仕事と生活に慣れるのに必死だったように思う。必死だったのはいいが、先輩に「パソコンを立ち上げてくれ」と言われて、本当にノートパソコンを立ててしまい苦笑されたり、来客を伝える際「〇〇様がまいられました」などと言っは、敬語がメチャクチャだと注意されたりした。さらに、先輩がせっかく沸かしたお湯を捨てるという意味不明の行動をとって怒られたりもした。自分でもなぜ捨てたのか今でもわからない。不思議だ。緊張していたのかもしれない。そんな新人をあきらめずに見守ってくれた弁護士の先生方、事務員の先輩方・同僚には深く感謝している。どこにでもよい人はいるものだなと思う。

大きく変わった仕事のスタイル

そんな私が最近感じることは、この10年で法律事務所という仕事のスタイルが大きく変わってきたということだ（青焼コピーの時代を知る先輩からすれば大したことはないのかもしれないが）。大きな要因としてはOA化が進んだことがあげられると思う。私の事務所

でも弁護士の予定表の記載や電話メモは、手書きからソフトを使ってのパソコン入力になり、FAXはPDFファイルにしてメールで送るようにもなった。また、内容証明郵便や不動産登記事項証明書なども、机に座ったままパソコンを使って提出・閲覧できるようになった。そして、それにとまなうようにスピードが求められるようになったと思う。弁護士や依頼者もそうだし、社会全体がそれを要求しているのかもしれない。

事務処理のスピードを常に意識して

今、私は常に事務処理のスピードを意識しながら仕事をしている。早ければよいというものではないし、もちろん正確さも重要だ。しかし、事務処理が早ければ事務手続きに誤りがあった時は期限までにやり直すこともできる。また、何よりも法的判断に必要な資料などをより早く揃えることで弁護士の考える時間を多く確保することができる。そんなことを考えながら毎日ドタバタと仕事をしている。

ドタバタしている間に後輩も入ってきた。まだまだ先輩方には追いつけないが、かつて、私が先輩方から学んだことを少しでも後輩に伝えることができればと考えている。

これからも、向上心をもって誠実に仕事と向き合っていこうと思う。